

第8章 治癒期間中の指導と管理

骨内に埋入されたインプラントがオッセオインテグレーションを獲得するためには、適切な免荷期間と徹底した機能圧の回避が絶対条件です。前述にあるように手術後2週間位はそれまで使用していた義歯の使用はできるだけ控えてもらい、骨内に埋入されたインプラントに負荷を加えないようにします。プラトンインプラントでの免荷期間は、下顎で3ヶ月、上顎6ヶ月の期間が必要です。しかし、骨質により治癒期間を長くとる必要がある場合もあります。治癒期間を延長することで、最終的に強固なオッセオインテグレーションを獲得することができ、骨質による劣勢を克服できるといわれています。また、感染の防止といった面でも十分に配慮してください。特に抜糸は通常術後7～10日に行いますが、抜糸時に汚染された縫合糸の汚染部が組織内を通過しないように慎重に行ってください。

1) 2回法について

2回法についても基本的な術式注意点は変わりませんが、完全粘膜下にあるインプラントの頭部が粘膜より露出した場合、無理をして再度縫合するよりもそのままの状態での徹底的な衛生状態を保つように洗浄、消毒を繰り返します。



2) オッセオインテグレーションの確認

オッセオインテグレーションは、前述で記載したような一定期間で獲得すると言われてしていますが、実際にそれを的確に判断することは非常に難しいことです。オッセオインテグレーションの獲得や治癒期間の評価を行うに当たり、宿主側の要素として患者の年齢、全身状態、骨質、また埋入手術時におけるドリリングの切削抵抗やインプラントの初期固定度、打診音などの術者の経験的要素、ペリオテスト®やOsstell®などの客観的な評価基準をもとに判断を行います。

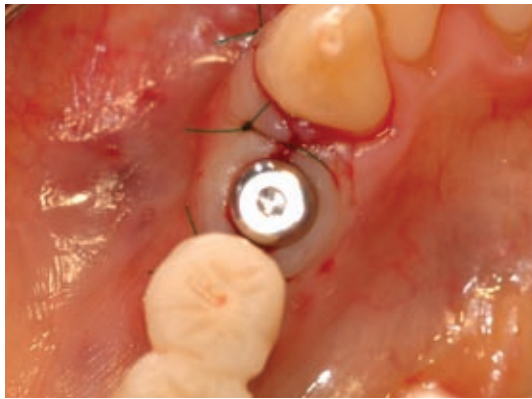
免荷期間の目安

上顎 6ヶ月

下顎 3ヶ月

治癒期間中の管理

- 埋入相当部位への機能圧の回避・・・暫間補綴物のこまめな調整と指導
- 感染の防止・・・定期的な診査と洗浄、消毒、プラークコントロール、衛生指導
- 咬合関係の保持・・・暫間補綴物の調整（挺出、移動の防止）



二次手術終了後の状態



オッセオインテグレーションの確認

- 視診・触診
- ペリオテスト、Osstell™ (写真)
- 打診音



ペリオテストによるインプラントの動揺診断



Osstell™ mentorによるインプラントの動揺診断